

第1学年 図画工作科 学習指導案 A表現(2)

題材名:「やぶいて みつめて みーえた!」

- 1 日 時 平成29年11月17日(金) 第3校時 10時~11時
2 学 年 第1学年2組 18名
3 場 所 第1学年2組 教室

3つの関わり

題材との関わり

アートスイッチが入る提案の言葉

(第一次)大きな紙をゆっくり破いてみると、こんなふうになったよ。くしゃくしゃにして破くとこんなふうになるね。みんなもいろいろな方法で破いてみよう。

(第二次)先生はこの間破いた紙の中でこれがお気に入りなの。何に見える?これとこれを組み合わせたら何に見える?みんなも「とっておきぶくろ」から破いた紙を出して、それをじっくり見てごらん。何かに見えてくるよ。

仲間との関わり

○破いた紙を貼る前に、自分の見立てたものを紹介する時間を設け、友達同士で意見交流しながら、自分とは違う発想があることに気付かせる。

作品との関わり

○紙の向きや組合せ方について試行錯誤しながら、何に見えるか考えようとしている姿を見取り、気付きを座席表に記入していく。それを基に、問いかけたり提案したりすることで、活動が停滞している児童の思いを引き出す。

であう

紙がたくさんあって面白そう。早く破いてみたいな。

さぐる

こんなふうには破けるのか。この向きに置いたら何かに見えそうだな。

みつめる

見て。こうやって組み合わせたらくじらに見えるよ。

あらわす

ぞうに見えたから、しっぽをかき足したんだ。この紙も使ってみよう。

あじわう

破いた紙がいろんな形に見えたよ。友達の並べ方も面白いな。

つくりだす喜びを味わう児童

題材について

本題材は、小学校学習指導要領図画工作第1学年及び第2学年の内容A表現(2)を受け、特にア「感じたことや想像したことから、表したいことを見つけて表すこと。」に重点を置いて設定している。

偶然にできた形からイメージをふくらませて形を組み合わせたり、絵をかき加えたりすることで、表現したいものを表すものである。1学期、「いろいろなかたちのかみから」の学習では、教師が用意した形を基にして何に見えるか考えたが、本題材では、児童が自分の手で破いた偶然の形を基にして、それを組み合わせたり、紙の特徴を生かしたりしながらイメージをふくらませていく。破くという単純な行為で、ただの紙がいろいろな形に見える面白さを感じたり、他の紙を組み合わせたり絵をかき足したりすることで発想を広げていったりすることができる題材である。

児童の実態について

本学級では、アンケートによるとほとんどの児童が「図画工作科の勉強が好き。」と回答している。しかし一方で、「絵をかいたりものを作ったりするのがあまり好きではない。」と回答した児童が30%近くいる。始める前には、面白そうと感じるものの、実際には、はさみ・のり・セロハンテープ・絵の具等の道具をまだ上手に使えない児童が多く、苦手意識につながっていると思われる。そこで、上手に使っている子どもを紹介したり、子ども同士で教え合いをさせたりして、道具をうまく使えるように工夫しているところである。

絵については、「いろいろなかたちのかみから」の学習において思い付いたことを表すという学習をし、多くの児童が紙の向きを変えながら、いろいろなものに見立てていた。しかし、何に見えるか考えられない児童もおり、自然な相互鑑賞が生まれるよう教室の机を合わせて活動したり、ウォッチングタイムで友達の作品からヒントを得たりすることで、思い付くことができている。その時の、見立てが十分でなかったという課題を解決するために、この題材においてしっかり素材に触れ、自らが紙を破くという活動をさせ、たくさんのひらめきが出るようにさせたい。

絵の具は、2学期になって「みてみておはなし」の学習において初めて使用したが、まだ十分には慣れていない。

指導にあたって

第一次では、紙に触れる時間を十分に確保し、様々な破き方、ちぎり方に気が付くことができるようにする。そのようにしてたくさんの形をつくることで、それに続く「見立てる」という活動が活発になると考える。また、教師が破いて見せたり、必要に応じて児童の破き方を紹介したりして活動が広がるようにする。紙は、基本的にゆっくり丁寧に破くことを伝える。その中で、大きく大胆に破く、指先で慎重に破く、クシャクシャにしてから破く、重ねて破く等を体験させ、破き方によって不定型な形ができあがる楽しさを味わえるようにする。

児童が故意に自分の思い描いた形を破くことがないように、「破く活動」と「見立てる活動」をきちんと分けて活動させる。「破く活動」の時間にできた自分が気に入った紙は「とっておきぶくろ」に入れておき、「見立てる活動」の時間に使用させる。

第二次では、見立てる活動を充実させるために、破いた紙を取り上げて全体で考えさせ、向きを変える、裏返す、組み合わせる等の方法に気付かせる。子ども同士で関わり合いができるように、破いた紙を交換したり、

友達の作品を見て何に見立てているのか想像したことを交流する時間を設けたりする。そのようにして友達の作品を参考にさせることによって表現をより高めさせたい。活動後には、自分がどのようなものを表したのか言葉で伝える時間を設定し、友達の作品のよさに気付いたり、鑑賞の楽しさを味わったりできるようにする。

題材の目標及び評価規準

<p>題材の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 紙を破く楽しさや、破いた紙の見方や置き方、組合せ方を工夫するなどして、絵に表す面白さを味わうことができる。【関・意・態】 ○ 破いた紙の形から思い付いたことを基に、表したいことを考えることができる【発・構】 ○ 思い付いたことを基に、破いた紙の置き方やかき方を工夫して絵に表すことができる。【技】 ○ 友達の絵を見ながら、表したかったことや表し方の工夫を見付けることができる。【鑑】

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
・紙を破く楽しさや、破いた紙の見方や置き方、組合せ方を工夫するなどして、絵に表す面白さを味わおうとしている。	・破いた紙の形から思い付いたことを基に、表したいことを考えている。	・思い付いたことを基に、破いた紙の置き方やかき方を工夫して絵に表している。	・友達の絵を見ながら、表したかったことや表し方の工夫を見付けている。

指導と評価の計画

(全4時間)

次	学 習 内 容(時間)	評 価					評 価 規 準	評 価 方 法
		関	発	創	鑑			
第 一 次	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> かみをえらんで、さわったりやぶいたりしてみよう。 </div> ○紙の種類や破き方について興味をもちながら、ゆっくり長く破いたり、指先でつまむように複雑に破いたりする。(1)	◎				◎紙をいろいろな方法で破き、不定型な形が出来上がる楽しさを味わおうとしている。	行動観察、 発言	
	であう							
	さぐる							

<p>第二次</p>	<div data-bbox="236 197 710 324" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>やぶいたかみにえをかきたして、おもいついたものをあらわそう。</p> </div> <p>○自分の破いた紙の置き方を変えながら、何に見えるか考える。 (1)【本時2/4】</p> <div data-bbox="161 521 300 577" style="border: 2px solid black; padding: 2px;"> <p>みつける</p> </div> <p>○自分の破いた紙を貼ったものに絵をかき加える。 (1)</p> <div data-bbox="161 712 300 768" style="border: 2px solid black; padding: 2px;"> <p>あらわす</p> </div>		◎			<p>◎破いた紙の形から思い付いたことを基に、表したいことを考えている。</p> <p>◎思い付いたことを基に、破いた紙の置き方やかき方を工夫して絵に表している。</p>	<p>行動観察, 発言</p> <p>作品, 作品 カード</p>
<p>第三次</p>	<div data-bbox="236 835 710 963" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ともだちとさくひんを見あいながら、おきにいりをみつけよう。</p> </div> <p>○友達の作品を見て、お気に入りを見つける。 (1)</p> <div data-bbox="161 1104 300 1160" style="border: 2px solid black; padding: 2px;"> <p>あじわう</p> </div>				◎	<p>◎友達の絵を見ながら、表したかったことや表し方の工夫を見付けている。</p>	<p>発言, 鑑賞 カード</p>

本時の展開

(1) 本時の目標 破いた紙の置き方をいろいろ試しながら、形や見え方の違いを見付け、絵に表したいもの
 を考えることができる。

(2) 準備物

〔指導者〕 画用紙、色画用紙、クラフト紙、新聞紙、包装紙、

〔児童〕 クレヨン、色鉛筆、フェルトペン、はがせるスティックのり、のり

(3) 展開 (本時2/4)

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	主 な 評 価 規 準 【観点】(方法)
<p>1 前時の学習を思い出し、本時のめあてや活動を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動の手順を伝えることで、見通しを持たせると共に、活動の意欲を高める。 見立てたものを伝え合うことを確認し、意図をもって活動させる。 	
<p>㊟ やぶいたかみのおきかたをくふうして、なにに見えるかかんがえよう。</p>		
<p>2 「とっておきぶくろ」から破いた紙を出して選び、その紙が何に見えるか考える。 「山？おむすび？」 「この紙を並べたら家にもなるぞ」 「あ、鼻だ！」</p> <p>・選んだ紙を、はがせるスティックのりを使って画用紙に貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の「破く活動」と本時の「見立てる活動」をきちんと分けて考えさせる。 教師が用意しておいた紙を使い、全体で見立て方を考えさせる。 思い付いたものをたくさん出させる。 向きを変えたり裏返したりして、置き方を変えることで、違う物に見えることに気付かせる。 組み合わせで見立てている児童がいれば、取り上げて全体に紹介する。 紙は、友達と交換してもよいことを伝える。 <p>・使わない紙を片付けさせ、それぞれの机の上に置いた画用紙に、選んだ紙を見立てに合うように置き方に気を付けて貼らせる。</p> <p>〈C 児への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 違う形の紙に変えることを提案したり、友達に相談させたりして、発想のきっかけをつくる。 	<p>【発想や構想の能力】 破いた紙の形から思い付いたことを基に、表したいことを考えている。 (行動観察, 発言)</p>

・何に見立てたか発表する。

【仲間同士と関わり合う場面】

何に見立ててあるのか想像し、クイズ形式で発表し合う。

「くじらに見えない？」

「ほんとだ、この形がしっぽみたいだね」

「ここに耳みたいな紙を置いたらぞうになるよ」

3 選んだ紙を、接着できるのりを使って画用紙に貼ったり、クレヨンで絵をかき加えたりする。

5 本時を振り返る。

○わたしは、この紙とこの紙を組み合わせました。これは何でしょう。

- ・発表者が何に見立てたのかを想像し、班の中で意見交流させることで、発想を広げるようにする。
- ・もっと他のものにも見立てるように声をかけることで、たくさんのひらめきが出るようにする。
- ・班の交流の中で出た考えを、クイズに答える形で発表させ全体に広げる。
- ・同じものを見ても、人によって様々なものに見える自由さに気付かせる。

- ・大きな紙を貼るときの、のりの付け方と紙片の貼り方を伝える。
- ・かきたいものを思い浮かべながら、クレヨンでかき加えをさせる。
- ・発想が広がれば、さらに紙を破いて付け足しをしてもよいことを伝える。
- ・活動の途中でウォッチングタイムを設け、友達の作品を見て回らせることで、表現がより高まるようにする。

- ・この時間にどんな組合せ方を見つけたのか振り返らせ、気づきや感想を発表させる。

児童のまとめ例

かみをならべたら、いろいろなものに見えました。

やぶいたかみを、ともだちがぞうに見ていたのが、おもしろかったです。

(4) 板書計画

11/17 やぶいて みつめて みーえた!

かんがえよう

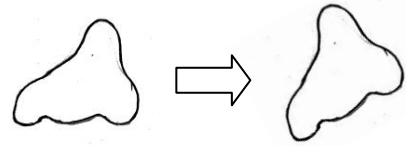
④ やぶいたかみのおきかたをくふうして、
なにに見えるかかんがえよう。

かつどうのじゅんばん

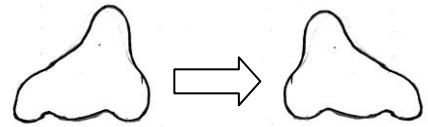
- 1, ちぎったかみをよく見て, がようしにはる。
- 2, なに見えるかかを, はっぴょうする。
- 3, がようしをはる。
- 4, えをかきたす。

見つけかた

- むきをかえる



- うらがえす



- くみあわせる

